

日本で



「世界一大きな授業」はすべての人への教育を訴え、毎年地球規模で行われています。

世界一大きな授業 2013

すべての子どもに教育を。みんなが動けば世界は変わる。

4月15日(月)～5月12日(日)



教育の大切さについて子どもが意見を発表(ベトナム)

47都道府県の684校・グループ、約6万人が参加。

世界の子ども10人に1人が小学校に通えず、大人の6人に1人が文字の読み書きができません。そうした世界の現実を学び、自分にできることは何かを考える「世界一大きな授業 2013」が、4月15日から5月12日にかけて全国で行われました。

この授業は2003年から毎年同時期に小中高校、専門学校、大学、塾、グループなどで開催されています。初年度の参加者は600人でした。今年はずべての都道府県、さらに海外の日本人学校にまで広がって、684校・グループ、59,116人が参加しました。世界でも、100か国以上の子どもたちと先生が参加しました。



4択クイズで世界の子どもと教育について知ろう(武蔵野東小学校/東京都)

●文字が読めない体験。そこから教育を考える

コップに書かれた文字を読むことができず、薬が毒かわからないで飲むこわさを実感したり、学校に行けない子どもたちが教育を受けられるために必要な援助額と世界の軍事費とリボンの長さでくらべ、軍事費よりもはるかに少ない額でみんなが学校に行けることを知るなど、おどろきとともに考える学びとなりました。

さらに参加者は、学びを通じて感じたこと、考えたことをもとに、安倍首相に宛ててメッセージを書きました。



これは、薬? それとも、毒なの?(藤岡南中学校/愛知県)

参加したみんなの声 ★学校に女の子は、通えないと聞いて、とっても腹がたちました。★毎日給食できれいな物が出て残しているが、食べられることが幸せだなんて知らなかった。★今日は命がけで薬をえらびました。こわかったです。★学校に行くと勉強することは命を守ることになると思った。★自分の考えを述べることの大切さを知った。★学校へ行って勉強するのは義務ではなく、自分たちの権利だということ強く感じました。★知らないことばかりで驚いたけど...自分にできることも少しはあるのだとわかった。★嫌々大学にきたが、この環境と親に感謝するべきだと思った。★「現地に行って学校をたてる」というのも大切だけれど、まずはその土地の人が本当に困っている事をぼくは知りたと思う。

安倍総理への提案 ★日本の教科書にもこのような事実を書いて小学生から教えてほしい。★お願いはしません。行動します。だから政府も政府にしかできないことを共に本気で取り組んでください。★世界各国が軍事費の1%を貧しい国の教育費にまわす。

100か国以上の子どもたちと先生が参加。



「田舎の学校に、もっと先生を」(ナイジェリア)

世界でも、さまざまな授業やイベントが行われました。例えばナイジェリアでは、授業のほかに子どもたちが町を行進したり、インターネットの動画サイトYouTubeで、先生を増やして先生にきちんと給料を払えるようにして教育をととのえるよう政府に改善を求めました。

また、ウクライナでは子どもたちと教育の大切さを見

つめ直すとともに世界に目を向け、Facebookなどで広く訴えかけました。



学校と先生の大切さを思い思いに描く(ウクライナ)

高校生が「先生」、国会議員が「生徒」になって世界の教育について授業。

5月7日、衆議院第二議員会館で、4年目となる「国会議員のための世界一大きな授業」を開催しました。

各党の国会議員25人(うち代理10人)が「生徒」に、高校生が「先生」になりました。床に白い糸で世界地図を描いて学校に通っていない子どもの分布をペットボトルのフタで表わすなど、高校生が工夫をこらした授業で途上国の教育の現状を伝え、日本からの援助の必要を働きかけました。さらに、フィリピンを訪問した「先生」から、ストリート・チルドレンについて報告。「生徒」たちは熱心に耳を傾け、「ぜひ、来年も授業を受けたい」との感想が出ました。



右から、みのり川議員、毎年出席の岡田元副総理

●だれもが学校に行けるために、NGOが国会議員に提案

授業の最後に、現実により多くの子どもが速やかに学校に行けるようになるために、日本をはじめ豊かな国はどのような支援をするのがよいのか



NGOからの提案(右)に聞き入る各党の国会議員。TV、新聞の取材陣がカメラで撮影

先生の声 ◆世界の教育の現状を含め、メディアでは多く報道されない事実があるということをつねに考えてほしいと願っています。◆実施前は、生徒達の恵まれた生活環境から考えると、あまり興味を示さないのではないかと考えていたが、授業を進める中で生徒達が知らなかった世界の子どもたちの実情を知り、心が動き始めたことを実感できた。◆中学時代に不登校ぎみだった生徒たちから「きちんと学校に行かなくてはいけない」という言葉をひきだすことができたのは世界一大きな授業のおかげ。◆「知る」→「考える」→「行動する」プロセスになっている点がすばらしい。◆今回の生徒の真剣さは普段にないものでした。実際に自分の意見が総理へ届くと聞くと、懸命に考えて書いていて、生徒の新たな一面を発見。

世界で

世界一大きな授業を企画・実施する教育協力NGOネットワーク(JNNE)から提案をしました。

現在学校に通えない6,100万人の子どもが教育を受けられるためには年間3兆5000億円必要です。その内1兆6000億円は豊かな国が負担すべきと国際機関やNGOは提案しています。この額は、世界で武器の購入など戦争をするためにつかわれる軍事費の約3.5日分の金額なのです。

日本の途上国援助は世界で5番目と大きな額ですが、その半分は橋やダム、港などインフラ整備のためで、子どもが小中学校に行けるようになるためにつかわれるのはわずか0.5%です。これを増やすよう提案しました。

第5回アフリカ開発会議(TICAD V)で全国からの声を政府に届けました。

「世界一大きな授業に参加した59,116人を代表し、外務政務官に意見を述べる機会を与えられたことをありがたく思っています」

6月1日、横浜で開かれたTICAD Vの初日、こんなあいさつとともに高校生が日本からの途上国への教育支援の充実を訴え、全国の「世界一大きな授業 2013」参加者の声を阿部俊子外務大臣政務官に手渡しました。

これを受け、阿部政務官は、「教育への支援を強化すべきという、皆さんの若い方々からの声、そしてアフリカからの声をしっかり受け止めてまいります」と語りました。



阿部政務官に、しっかりと手渡す

予告!!

世界一大きな授業 2014

世界では、学校に通えない子どもは今なお6,100万人います。せっかく入学しても、教育環境の悪さや子どもが家計を支えるために働くなどして、学校をやめる子どもは、例えばアフリカで毎年1,000万人います。すべての子どもが小学校を卒業できることを実現するために、2014年も世界一大きな授業を開催します。みなさんもぜひ、参加してください!

主催:教育協力NGOネットワーク(JNNE) 共催:プラン・ジャパン 助成:庭野平和財団 協賛:KUMON English Immersion Camp、アーユス仏教国際協力ネットワーク 協力:地球対話ラボ 後援:文部科学省、外務省、国際協力機構、動く→動かす、ガールスカウト日本連盟、「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議、なんとかしなきゃ!プロジェクト、日本国際ボランティア学生協会、日本赤十字社、日本YMCA同盟、ボーイスカウト日本連盟 ■事務局 〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22-11F 公益財団法人プラン・ジャパン内 電話:03-5481-0030 FAX:020-4662-2085 Eメール:advocacy@plan-japan.org 世界一大きな授業 http://www.jnne.org/gce2013/

企画・実施				賛同
				アフリカ地域開発市民の会 国際開発支援財団
オックスファム・ジャパン	開発教育協会/DEAR	グッドネーバーズ・ジャパン	アクション・ウィズ・ユス	チャイルド・ファンド・ジャパン ワールド・ビジョン・ジャパン ユネスコ・アジア文化センター
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	プラン・ジャパン		

市民の立場から途上国で教育支援を行っているこれら教育協力NGOネットワーク(JNNE)会員団体は、国内では募金受付、事務所訪問受け入れ、講師派遣、教材・資料の貸し出しなどさまざまな機会を設け、みなさんの参加を呼びかけています。